



特集

— 持続可能な岩手農業の確立 —

純情産地いわての 確立

岩手県本部次期3か年計画(平成28年~30年度)
のめざす方向



副本部長
照井 勝也



第9回

ハクサイ

十いくつかの夜とひる (詩・補遺詩篇)

十いくつかの夜とひる
患んでもだえてゐた間
寒くあかるい空気のなかで
千の芝罘白菜は
はじけるまでの砲弾になり(中略)
あゝひっそりとしたこの霜の国
ひっそりとしたすぎなや砂
しかも向ふでは川がときどき
不定な湯気をあちらこちらで爆発させ
残丘の一系列
雪を冠って青ぞらに立つ
病んでゐても
或は死んでしまつても
かういふ風に川はきれいに流れるのだ
白菜の膨れた葉脈の間には
氷の粒が填つてゐて
緑いろした鎧の片のやうでもある

「白菜(ハクサイ)」は、アブラナ科の重要な野菜。白菜の種類は大別して芝罘(チーフー)白菜系、包頭連白菜系、山頭白菜系の三種類。白菜の葉片を鎧のひたたれに見立て、緑の太い葉脈をひたたれの縫い糸の印象としての表現か。残丘(モナドノック)とは、侵食から取り残されて準平原上に孤立する丘陵。米国ニューハンプシャー州のモナドノック山が、その典型なのでモナドノックと称した。患んで。填つて。

参考資料:岩手日報社発行「続 賢治のイーハトーブ植物園」より

純情産地発 クララー KLARA vol.799 2016.2

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

賢治とイーハトーブの野菜たち	02	みんなの分教場	07
特集 純情産地いわての確立		イーハトーブの担い手便り	08
	03	純情むすめ活動記	09
食から健康 ドクターズレストラン	06	NEWS ワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳にしろされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。



はじめに

昨年は、春先の干ばつに始まり、早期からの台風の影響。8月以降の高温・多雨等々大きく気象が変動する1年でありました。幸い本県では、大きな気象災害の発生もなく、各農畜産物とも順調な生産・販売となりました。

県内農業生産は、後継者不足などによる生産基盤の弱体化の一方、米の集落営農組織・法人化、園芸・畜産農家の規模拡大など新たな取り組みが始まっております。

その中で、第44回J A岩手県大会のテーマである「農家組合員の所得増大と地域の活性化に全力を尽くす」を基本とし、次期3か年の方針がまとまりました。

については、以下の基本的な考えのもと取り進めることといたします。



体制の構築
 ◇県オリジナル品種のブランド化、県産穀物(米・麦・大豆)の生産ビジョン策定と作付誘導

《園芸部門》
 ◇実需者・流通ニーズにもとづく生産基盤の強化
 ◇「オールいわて」としての販売戦略構築による販売力の強化
 ◇反収確保と流通コストの低減

《畜産酪農部門》
 ◇系統組織一丸となった指導体制のスキルアップと生産性の向上
 ◇系統組織の機能を活かした和牛の県内一貫生産体制の確立による農家経営基盤の安定化

《資材部門》
 ◇肥料農業事業における農業者の所得増大の取り組み、事業競争力の強化
 ◇ガスを柱とした家庭用エネルギーの推進体制の構築

《農機部門》
 ◇トータルコスト低減と担い手支援
 ◇事業環境に対応した人材育成
 ◇事業運営基盤の強化

以上のような部門別の基本方針で取り進めます。特に、次期3か年計画の柱である「持続可能な岩手農業の確立」を具現化するため、販売各部門とも実需者・流通のニーズにこたえる生産に積極的に取り組むとともに、「買取り販売」等の販売手法を導入し、消費・流通から支持される産地をめざします。

1. 基本方向

農業を取り巻く事業環境の変化が早く・大きくなっている状況をふまえ、県本部として本県農業生産基盤の維持・拡充に向けて「持続可能な岩手農業の確立」を基本に次期3か年計画を策定・実践します。

2. 取扱高計画

〈都府県本部東北1位の取扱高確保〉

取扱高目標 1423億円(平成30年度)

3. 重点実施施策

- (1) 純情産地いわて生産基盤拡充対策の継続
- (2) 県産農畜産物の販売力強化
- (3) 生産技術の高位平準化とコスト低減への取組強化
- (4) 実需者・流通のニーズに対応した農業生産の実践
- (5) 多様な農業者ニーズへの柔軟な対応
- (6) 部門間連携による利便性向上と購買品取扱拡大

1. 部門別の基本方針

《営農対策部門》
 ◇生産者手取り最大化に向けた取り組みの実践
 ◇TAC活動・出向く活動基盤の確立と多様化する担い手ニーズへの対応強化
 ◇食の安全・安心への取組強化

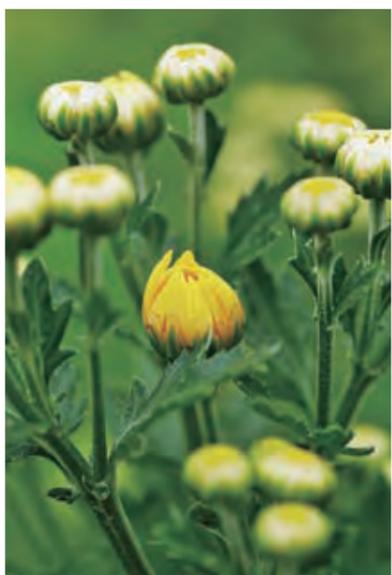
《米穀部門》
 ◇確実な販売実践に向けたマーケットインへの事業転換
 ◇平成30年に向けて用途別需要に見合った生産集荷

また、地域農業を支える「多様な担い手」に対しては、部門間で連携を取りながら引き続き生産支援を実施してまいります。
 資材部門においては、生産ニーズに適合した最適化を一層推進するほか、新たな生産技術の導入と競争力を強化し資材費の低減対策に取り組めます。

おわりに

次期3か年計画は、農政の転換期・組織の再編・多様な貿易交渉等々、まさに、大きな変化が想定されます。その中で、「純情産地いわて」の継続的な生産基盤の維持・拡大と農家組合員の所得増大が大きな柱と考えております。

このことは、県内の会員J A・組合員の理解と協力はもとより、また、岩手県を始めとする行政機関、関連組織との機能分担と相互の連携が不可欠であります。
 目標達成に向けて知恵を絞り・工夫をし・結果し役職員一体となって取り組んでまいりますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。





米穀部 集荷推進課
技術主管
伊藤 専一

平成27年産米の 検査概況について

■表1 27年産米作況指数

全国	北海道	北陸	関東	近畿	九州	東北	岩手	青森	秋田	宮城	山形	福島
100	104	99	98	100	96	103	105	105	103	103	103	101

(農林水産省資料)

■表2 27年産水稻うるち玄米の等級比率 (全国11月末現在)

地域別	等級比率 (%)			
	1等	2等	3等	規格外
全国	82.8	14.6	1.7	1.0
東北	91.3	7.4	0.8	0.5
長野・全国1位	96.1	3.2	0.4	0.3
岩手・全国2位	95.5	4.1	0.4	0.0

(農林水産省資料)

■表3 27年産米銘柄別等級比率 (岩手県全体11月末現在)

種類	銘柄	26年産米比率	27年産米比率
水稻うるち玄米	ひとめぼれ	92.5%	95.8%
	あきたこまち	94.6%	96.1%
	いわてつこ	89.6%	92.2%
	どんぴしゃり	92.9%	97.0%
	かけはし	41.2%	69.3%

(農林水産省資料)

最後に、8月中旬以降の天候不順にもかかわらず、生産者等の適切な品質調整等の努力により、「安全・安心」「うまい米づくり運動」が推進されました。

米の流通段階は、消費者・実需者の食品に対する「安全・安心」への関心が強いものとなっております。米を取巻く環境は毎年厳しいものがあります。

JAGグループでは、多様な要望に対し、適正かつ公平に農産物検査を実施し、今まで積み上げてきた、「純情産地いわて」に対する信頼を失わない取り組みが重要となっております。農産物検査においては、法令遵守はもちろんのこと、「調整・検査・保管」の各段階での更なる細やかな対応をお願いし、平成27年産米検査の報告とします。

平成27年産水稻の都道府県別作柄は、北海道及び東北では生育期間を通じて概ね天候に恵まれ、平年作を上回ったものの、関東以西では日照不足や台風等の影響により、平年並み〜平年を下回る収量となったことから、全国の作況指数は「平年並み(100)」となっております。地区別に見ると、東北は「やや良(103)」、岩手は5年連続の「やや良」となっています。一方で、関東以西では、北陸、近畿の「平年並み」を除き、平年を下回っています。

白腹白が21.5%(前年26.6%)、整粒不足19.3%(前年21.2%)と下回るなか、充実度22.4%(前年20.9%)、着色粒20.5%(前年17.4%)は高いものとなっております。

岩手県産米の初検査は、水稻もち玄米は昨年より2日早い9月7日、水稻うるち玄米は昨年より5日遅い9月24日となっております。

水稻うるち玄米の検査概況(11月末現在値)は、1等比率が95.5%と前年同期の92.5%より30ポイント高いものとなっております。

2等以下の主な格付け理由は、着色粒が45.6%(前年同期53.6%)、形質(心白・腹白)が58%(前年同期97%)と下回るなか、胴割れが80%(前年同期25%)と高いものとなっております。

品質は、8月中旬以降の天候不順により

生育が遅れた地域と登熟が進んだ地域に分かれます。登熟が進んだ一部の地域では、高温障害の影響からシラタ(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が見られました。生育が遅れた地域では、青未熟の発現が見られることに加え、天候不順の影響から、全体的に光沢がやや劣る傾向となっております。さらに、刈遅れの影響から軽微な胴割れが見受けられましたが、品質への影響は少ないものとなっております。

品種別では、「ひとめぼれ」「どんぴしゃり」は、シラタの発現が少ないものとなっております。一方で、「あきたこまち」は、青未熟等が見られ、また、「いわてつこ」は、低温傾向から青未熟粒が見られます。総体的には、いずれの品種も粒ぞろいや千粒重が確保されていることから、品質は、「平年並み」となっています。

食から健康

Doctor's restaurant

～ドクターズレストラン～



協力/ドクターズレストラン「Green*Green」盛岡市松園2-2-10 TEL.019-665-2345

自宅で作ってみましょう

料理監修/管理栄養士 白井名津子

材料(2人分)

白菜大2枚、ひつまみ8枚、☆絹ごし豆腐120g(3連パックのもの1個)、☆白みそ大さじ1、★豚ひき肉60g、★玉ねぎ(みじん切り)1/2個、★油小さじ2、★ケチャップ大さじ2、★みそ大さじ1、★水適宜、プロッコリー(茹で)4かけ、ミニトマト(半分に切る)4個、粉チーズ小さじ2



1 フライパンに油をひき、豚ひき肉と玉ねぎのみじん切りを炒める。全体に火が通ったら★の調味料と水を加え煮詰める。



2 ボウルに絹ごし豆腐を入れ、泡だて器でなめらかにする。★の調味料と水を加えてさらに混ぜる。



●白菜とひつまみの和風ラザニア

エネルギー 255kcal
たんぱく質 13.7g
脂質 10.5g
炭水化物 26.3g
塩分 2.1g

ラザニアは平たいパスタの一種で、ホワイトソース、ミートソース、ラザニア、チーズを重ねてオーブンで焼き上げた、イタリアのナポリ地方の名物です。子どもから大人まで人気の料理ですが、バターやチーズを多く使うためカロリーが気になる人には敬遠されがちです。

そこで今回は、脂質の量をぐっと抑えた和風のラザニアをご紹介します。

最大のポイントは、味の決め手のホワイトソースを使わないこと。代わりに絹ごし豆腐と白みそを混ぜ合わせた「ホワイトソースもどき」を使用するので、カロリーが低いのも特徴です。もちろんですが簡単に時間をかけずに作れるのも特徴です。またミートソースも本来時間と手間がかかるものですが、赤みそとケチャップを使うことで旨味を加え、あつという間に出来上がります。

今回は岩手名物・ひつまみをラザニアの代わりに加え、旬の白菜を間に挟むことで高年齢の方でもさっぱりと最後まで召し上がっていただける「和風な洋食」に仕上げました。

【付け合わせ】
焼きねぎとほうれん草のマリネ…長ねぎは一口大に切り、魚焼きグリルで焼く。粒マスタード、おろしにんにく、酢、砂糖、塩を混ぜ合わせたものに焼きたてのねぎを漬け、冷ましたら、茹でたほうれん草に和える。エネルギー35kcal。
にんじんのバルサミコ酢和え…にんじんは皮をむき、ピーラーで薄く削る。バルサミコ酢、しょうゆ、オリーブ油を混ぜ合わせたものに、食べる直前ににんじんを加えて和える。エネルギー27kcal。

健康食材

白菜：白菜はカリウムが多く、冬場に身体に溜まりがちな塩分を体の外に排出し、むくみを予防する。水分が多いのでエネルギーが低く、鍋などにすると肉や魚介類などのたんぱく質製の食品の食べすぎ予防にもなる。芯や外葉の部分に栄養価が高いので、捨てずに加熱して食べるとよい。

人参：冬が旬の人参の赤い色素成分は「カロテン」で、体内でビタミンAに変わり粘膜の保護や免疫力向上などに働く。そのため今の時期は風邪の予防にもオススメ食材。カロテンは油と一緒に摂ると吸収力がアップする。

「市街地における集落営農を担う戸別法人」

株式会社網代農園(奥州市前沢区)



菅原勇一さん

平成5年の大冷害により サービス業から農業へ参入

株式会社網代農園が所在している奥州市前沢区立石集落は、市街化の進む前沢市街の中にあつてJR東北本線と国道4号線を囲んだエリア内にあります。

同法人は奥州市前沢駅の北0.5kmの地点に有つて、看板「活魚とお食事網代」が目印となつていて、広い敷地内に自宅、加工施設、ライスセンターや格納庫の農業生産施設と食堂が配置され、家族で農業と食堂を経営しています。

代表取締役である菅原勇一さん(63歳)は、昭和63年に現在の場所で食堂を開業しましたが、平成5年の大冷害で国内が米不足で大騒ぎになった時に食堂で使う米の確保もままならず、自分自身で米を生産し確保することを決意して、平成6年に5㍊の水田を借りて水稲栽培を始めました。

その後も水稲の栽培面積を拡大する中で、立石集落でも集落営農組織設立が話し合われましたが、地区内の面積が少なく市街化も進み集落内の合意形成を図ることが難しいと判断して、地域内の農用地を集積し地権者の協力を得ながら水田農業を行うために平成18年に家族3名で法人を設立しました。

平成27年には10㍊の農地を集積して、農地所有者の協力を得ることにより98㍊の水稲栽培、水稲苗と育苗施設20㍊を活用した野菜類の生産販売を行っています。

1戸1法人が地域の農地を集積、農地を守る

立石集落には28戸の農家と15㍊の農地がありますが、圃場は10㍊区画前後で圃場条件や作業性に課題がありますが、地域の農地を守るために農地賃借の相談があれば断る事無く、農地を取得したり賃借により有効に活用しています。



菅原勇一さんと仲間達



冬春野菜栽培



精米・米粉麺(前沢べ〜麺)



農業体験学習

借の条件として法人が自由に区画整理等が出来ること了承を取付け、自力で30〜50㍊区画に整理を行うことにより作業の効率化を図っています。

水稲生産の課題は畦畔等の草刈、田植や稲刈り時の繁忙期の労働力確保で、農地の出し手農家の方々の協力を得ることで生産が維持出来ており、戸別法人と地元農業者の結びつきにより相互に共生できる集落営農が確立されています。これから法人の多角化を進めるためには、農業生産に加えて加工・販売部門における労働力の確保も課題となり、地元の方々と結びつきが大切であると考えられています。

(株)網代農園の経営の多角化

地元サービス業から農業参入したと言う大変貴重な事例ですが、本人が農業経営を担い妻と息子が食堂を経営し、それぞれ独立して食産業を担っています。

農業経営の特色は、食堂の調理場で活用していた「電解水」を農業生産にも導入して、農薬を削減する「電解水農法」により特別栽培米などブランド力の高い米づくりと水稲苗1万箱の販売、育苗ハウスを活用した冬春野菜(ブロッコリー、キャベツ)の生産を行なっています。消費者に安全な農



TAC活動

産物を供給するために電解水農法により農薬の使用を削減することで「無農薬栽培」に近づきたいと調査研究に取組まれています。

また、平成24年には「6次化計画」の認定を受けて精米(自信作)の販売や米粉麺「前沢べ〜麺」の製造販売など、経営の多角化についても着実に進められています。

なお、子供たちに農業の重要性を理解してもらうために平成27年よりJA岩手ふるさとが主催する農業体験学習でも活躍、地元前沢小学校5年生を対象として「緑豊かな大地を未来に」をスローガンに、お米生産の学習の場の提供と学習に対する指導にも参画しています。

農業経営の目標を伺いましたが、経営規模は15㍊で現在の販売額2000万円を3000万円に拡大すること、顧客が求める米や野菜生産に加えて付加価値を付けた米の販売と米粉麺(冷凍)等の特産品づくりを行い、農業の6次化を実践したいと話されており、ビジョンの実現に向けて更なる活躍を期待するものです。

株式会社網代農園の概況

- 代表取締役 菅原勇一(63歳)
- 設立 平成18年8月
- 所在地 奥州市前沢区株樹180
- 構成員 本人、妻、長男
- 経営面積 10ha(水稲9.8ha(自作地2.5ha)、ハウス2,000㎡)
- 施設機械 ライスセンター、精米所、製麺所、格納庫、トラクター2台、田植機、コンバイン



ふるさと祭り 美味しい笑顔がたくさんある岩手



2015いわて純情むすめ
西川 知奈美

1月8日から1月17日まで東京ドームで開催されていた「ふるさと祭り東京2016」。いわて純情むすめは、最初の四日間と最後の三日間に参加してきました。ふるさと祭りは、祭食兼備を掲げ、全国各地のお祭りや美味しいものが集まっています。私たちは岩手の豊富な海の幸山の幸を使用したカップご飯の販売と、今秋デビューの県オリジナル品種「銀河のしずく」の試食会を行いました。岩手県産の食材だけを使用したカップご飯は、最初からこれを目当てにしているお客様がいっぱいだったり、リピーターが出たりと大好評でした。



また、銀河のしずくの試食会では、甘みがあって美味しいとの声をたくさん聞きました。小さな子供たちは、親御さんが笑ってしまふほど、銀河のしずくを一生懸命

食べており、何よりもこれが美味しいお米の証拠だと思えました。美味しいものを食べると笑顔になります。美味しいものを食べる人を見て周りの人も笑顔になります。それを目の前で見て、もっともっと岩手の美味しいものをPRしたい、そしてもっともっと皆さんの笑顔が見たいと思います。

岩手には、人を笑顔にする美味しいものがたくさんあります。それが岩手の魅力で

来場者のみなさんの
笑顔にパワーを
もらいました!



笑顔が
はじける

純情むすめ 活動記

ですが、美味しいものを作る人がいる、美味しいものを届けようと努力している人がいることも、岩手の魅力であり、誇りであると思います。今回、ふるさと祭り活動して、人を笑顔にする美味しいものがたくさんある岩手は素敵だと改めて思いました。2015いわて純情むすめの活動も折り返しを迎えました。これから人も笑顔にする美味しいものを私たちの笑顔とともに届けていきたいです。



JA全農いわての純情人

じゅん じょう びと

趣味・特技

映画鑑賞、ビリヤード

現在の担当業務

私は現在、肉用牛の預託事業や新マルキン事業などといった、肉牛の補助事業に関わる業務を主に担当しています。また、11月からはホルスタイン種における相対業務も任せられています。どれも責任ある業務で気が抜けませんが、その分様々な経験ができるため、やりがいを感じています。

これからどんな職員になってみたいか

1日でも早く、農家の方々から信頼される職員になりたいです。そのためにも、先輩や農業の先生である農家の方々から知識を吸収し、経験を積んでいきたいと思っています。



畜産酪農部
畜産販売課
なかおく たくま
中奥 拓真さん(22歳)

県内各地で初競り

1月6日(水)～7日(木) 県南家畜市場
1月13日(水)～15日(木) 中央家畜市場

6～7日、県南家畜市場(奥州市江刺区)で、13～15日には中央家畜市場(雫石)で、子牛(黒毛和種)の初競りが開かれました。一頭あたりの総平均価格はそれぞれ74万4922円(県南)、70万5499円(中央)といずれも前年の初競りを上回り、幸先の良いスタートを切りました。

競りに先立って開かれた初市式には繁殖・肥育農家やJA、行政



関係者による鏡開き

担当者が出席。鏡開きの後、牛乳で乾杯、餅まきを行い、今年1年の好取引を祈願しました。6日は主催者を代表してJA全農いわての畠山俊彰県本部長が「17年の宮城全共に向け、畜産県いわてとして日本一を目指し取り組んでいきます」と挨拶。13日は達増拓也岩手県知事が「今年の干支、丙申(ひのえさる)の意味のごとく、いわて牛ブランドが全国トップレベルの地位を確立することを期待します」と祝辞を寄せました。



競りにかけられる子牛

繁殖農家の減少により高騰し続ける価格相場を受け、生産者の多田和広さん(JAいわて花巻)は「繁殖農家にとってはありがたいけれどいつかバランスが崩れるはず。注意してみたいです」と話しました。

和牛子牛市場初競り成績

	上場頭数	最高(円)		平均価格(円)	前年比(%) (平均価格)
		雌	去勢		
県南市場計	576	102万9240	106万9200	74万4922	129
中央市場計	1069	101万880	97万9650	70万5499	123

県南4JAが目標達成

1月18日(月)

ピーマン10億円大会

岩手県南JA(JA岩手ふるさと、JA江刺、JAおおふなど、JAいわて平泉)の2015年産ピーマン販売額が10億円に達したことを受け、同JAとJA全農いわては奥州市内のホテルで10億円達成大会を開催しました。4JAで連携し生産課題の共有・解決など一丸となって取り組んできたことに加え、価格が高単価で推移したことが支えとなりました。

大会には4JAから生産者と職員、市場・流通関係者ら約130名が参集。16～18年の3か年計画を確認し、販売目標や対策を共有しました。大会に先立ち挨拶したJA岩手ふるさとの門脇功経営管理委員長は「関係者の力を結集し今回、計画を達成することができました。次期も目標達成に向け頑張りましょう」と喜びを語りました。各JAの生産部会代表者らがそれぞれ生産対策を発表、面積拡大と反収・商品性の向上を誓い、そのうちJA岩手ふるさとの佐藤啓悦さん(ピーマン専門部長)は「地域一体での若手育成や専門部による定期検査会等を実施し、安心して栽培できる

環境づくりに努めます」と話しました。

JA全農いわては4JAおよび普及センター担当者を構成員とする「ベジプロの会」を12年に設置し、15年度を目標とする3か年計画において販売額10億円を掲げ、生産拡大と販売強化に取り組んできました。15年産販売実績は数量2651トン、販売金額10億7996万円、平均単価は407円/kg。前年と比較して数量は同程度、販売金額と単価は21%上回りました。16年からの3か年計画では、最終年度の18年は数量3719トン、販売金額13億円を目指します。



大会の様子



今年は雪が少なく暖かい冬だと感じていましたが、1月半ばになって急に雪が降り、一気に冬らしくなりましたね。雪不足によりいわて雪まつりの雪像制作は中止とのことですが、屋台村を目当てに今年も足を運びます。道路がツルツルすべるので、車の運

が怖い今日のごろです。

さて、JAタウンでは「気仙小枝柿」を、2月末までの期間限定で販売中です。身質がかたく上品な甘さが特長の「気仙小枝柿」、ぜひ一度で賞味ください。

(千葉)

元気はつらつ! 県内小学生各スポーツ大会開催

JA全農いわては、子ども達の健やかな心身の成長を支援するための活動の一環として、様々なスポーツ大会に協賛しています。

12月6日(日)

第3回JA全農いわていわて牛カップ S-1卓球グランプリ 兼 第13回全国ホープス選抜卓球大会・岩手選抜代表選手選考会

JA全農いわて畜産酪農部は、県内小学生を対象とした卓球大会「第3回JA全農いわて牛カップS-1卓球グランプリ 兼 第13回全国ホープス選抜卓球大会・岩手選抜代表選手選考会」へ特別協賛しました。大会には総勢80名が参加し、試合では白熱した展開が繰り広げられました。上位入賞者へは副賞としてトロフィーのほか、いわちくサーロインステーキなど豪華賞品が贈呈されました。

【5・6年生男子の部】

第1位	屋敷 大	洋野TTC
第2位	高橋 碧斗	矢巾卓球クラブ
第3位	藤根 大輔	石鳥谷卓球スポーツ少年団
第4位	堀川 隼杜	一関クラブ

【4年生以下男子の部】

第1位	佐藤 遼太	花卓ジュニア
第2位	佐藤 颯太	花卓ジュニア
第3位	多田 啓佑	花卓ジュニア
第4位	久保 賢輔	矢巾卓球クラブ

【5・6年生女子の部】

第1位	伊藤 明香	若松クラブ
第2位	石川 凜	一関クラブ
第3位	佐藤 瑠衣	若松クラブ
第4位	小林りんご	宮古Jr.

【4年生以下女子の部】

第1位	照井 莉胡	花卓ジュニア
第2位	高橋 樹里	KTC
第3位	佐藤 詩華	中野クラブ
第4位	遠藤唯桜花	一関卓心クラブ



12月5(土)・6日(日)

いわて純情りんご杯 第32回岩手県小学生バレーボール育成大会

JA全農いわて園芸部は「いわて純情りんご杯 第32回岩手県小学生バレーボール育成大会」へ特別協賛しました。今年度は男女あわせて94チームが参加、熱戦を繰り広げました。上位入賞チームにはトロフィーと江刺りんごが贈呈されました。

【男子 一部】

優勝	金ヶ崎VBC(金ヶ崎町)
準優勝	奥州江刺JVC(奥州市)
第3位	社陵ファイターズ(盛岡市) 花巻バレーボールスポーツ少年団(花巻市)

【女子 一部】

優勝	気仙バレーボールスポーツ少年団(陸前高田市)
準優勝	萩荘黒沢VBC(一関市)
第3位	花巻バレーボールスポーツ少年団(花巻市) 一関Vアタッカーズ(一関市)



12月26日(土)～28日(月)

第39回岩手県ミニバスケットボール交歓大会 いわて純情米選手権

JA全農いわて米穀部は「第39回岩手県ミニバスケットボール交歓大会 いわて純情米選手権」へ特別協賛しました。大会には地区予選を勝ち抜いた男女各32チームが出場し、練習の成果を競い合いました。参加チームには「いわて純情米ひとめぼれ」おにぎりや県産牛乳が配られ、選手達はエネルギー補給をしたのちに試合に臨みました。

【男子 一部】

優勝	東水沢常盤(奥州)
準優勝	黒東(北上)
第3位	山目(一関) 好摩(盛岡紫波)

【女子 一部】

優勝	太田東(盛岡紫波)
準優勝	中里きらり(一関)
第3位	湯口(花巻) 黒東(北上)





喜びの席を彩る、いわて牛。
雅味天晴



いわて牛普及推進協議会
 事務局 / 岩手県農林水産部流通課内
 TEL019-629-5735
<http://www.iwategyu.jp/>



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
 安心で結ぶ懸け橋**
 になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
 JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

